

羊ヶ丘養護園安全委員会だより



羊ヶ丘養護園 VOL.47 令和3年9月20日 発行者 松本

第56回安全委員会が8月25日に開催されました。

今年度2回目の安全委員会をコロナ感染予防の為にリモートで開催させて頂きました。これまで何とか対面での実施をと模索しておりましたが、円滑な情報共有と安心安全への取り組みの空白を作らないということ、そして紙面での開催よりももう少し各委員の声を反映したいとの想いもあり、当園の安全委員会史上初めてのリモート開催に踏み切った次第でありました。報告ケースは令和3年5月4日から令和3年8月12日までの全20ケースであり、前回同様約半分が小学校低学年男子の暴力でありましたが、いずれのケースも今後それぞれの発達段階や生活状況を把握し、より丁寧な対応を検討していく必要性を感じるものでした。

性暴力の実態と対応

今年の夏は例年以上に性暴力として取り扱ったケースが多かったように思います。その内訳を見てみると、職員と児童の距離感に見ていて不快感を覚えた児童からの訴えが1件、低学年男子児童から女子(幼児)へのプライベートゾーンを触る行為が2件。それ以外に聴き取り調査の中で、プライベートゾーンを触り合う遊びをしていた、裸を見せられた(見えてしまった)という報告がありました。それぞれ「見せられた」「触られた」「遊びでやった」と性質の違う事象ではありますが、いずれも「悪戯」ではなく「暴力」として対応させて頂いている背景には、性問題は様子を見ていて収まるものではない事や、殴打系暴力との関連性も非常に高く、暴力そのものがエスカレートするリスクが非常に高い行為であるからに他なりません。会議の中でも委員の先生方から多くのご意見を頂きましたが、教育の現場においても性問題の解決がとても難しい現状であるということを私たちは確認させて頂きました。そのような中でいかに当事者の子ども達にその行為の不適切さと、周囲の大人達や被害者の想いを伝えて行くのか、考えさせられるものでした。

解決の現場

建設的な話し合いにならない・言葉より手が出る・・・

職員が介入したり、解決の場を設けても加害、被害両方で起こりえるこの現象。最近増えています。

これに対して児童の発達段階に着目する必要性について澤委員長が言及しておりました。トラブルを解決するという行為自体が少なくとも負荷になる子もいる中で、双方が正しい学びに向かっている様に大人が関わるにはどうすれば良いのか。とても悩ましい問題ですね。

再発の防止に向けて

審議の結果

今回、嚴重注意後の生活状況の確認も兼ね、中2男子、高3男子の委員長注意と小6男子の面談を後日実施する事で結審しました。本来であれば会議当日の実施が定石ではありますが、注意面談のリモート開催は難しいと判断し、上記の様に決定しました。

今回児童と職員との間で生じたトラブルを1件、職員からの暴力として報告させて頂きました。この件を通して、日々職員と子どもの関係性を築いていく事の大切さを改めて考える機会となりました。職員が子どもの手本となる行動をする事は、子どもの成長にとって大切な事です。子ども達の特性を理解する事、そして、職員も自分の気持ちを言葉で伝える約束を守って下さい。

今回は施設長から職員に対して嚴重に注意をしました。

施設長 大畑和子

※今後上記に加え、職員のアンガーマネジメント研修等への参加を通して、再発の防止に繋げていきたいと考えています。

暴力の内容：児童の挑発的な言動に腹を立てて中指を立てた。

今回児童相談所さんのご出席は叶いませんでしたが、今年度初めて委員の皆様のお顔を拝見させて頂きながら会議を行う事が出来たことに感謝申し上げたいと思います。小中学校の校長先生から教育現場での現状とご苦労もお聞きし、改めて子ども達を預らせて頂いている立場の者として今後も情報共有や連携の在り方を一緒に考えて行くことが出来ればと強く感じました。

児童指導員 松本